

劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業
東日本大震災心の復興祈念コンサート

平成27年度「劇場・音楽堂等活性化事業」

文化庁

助成：

第4回ウィーン・フィル &
サントリー音楽復興祈念賞

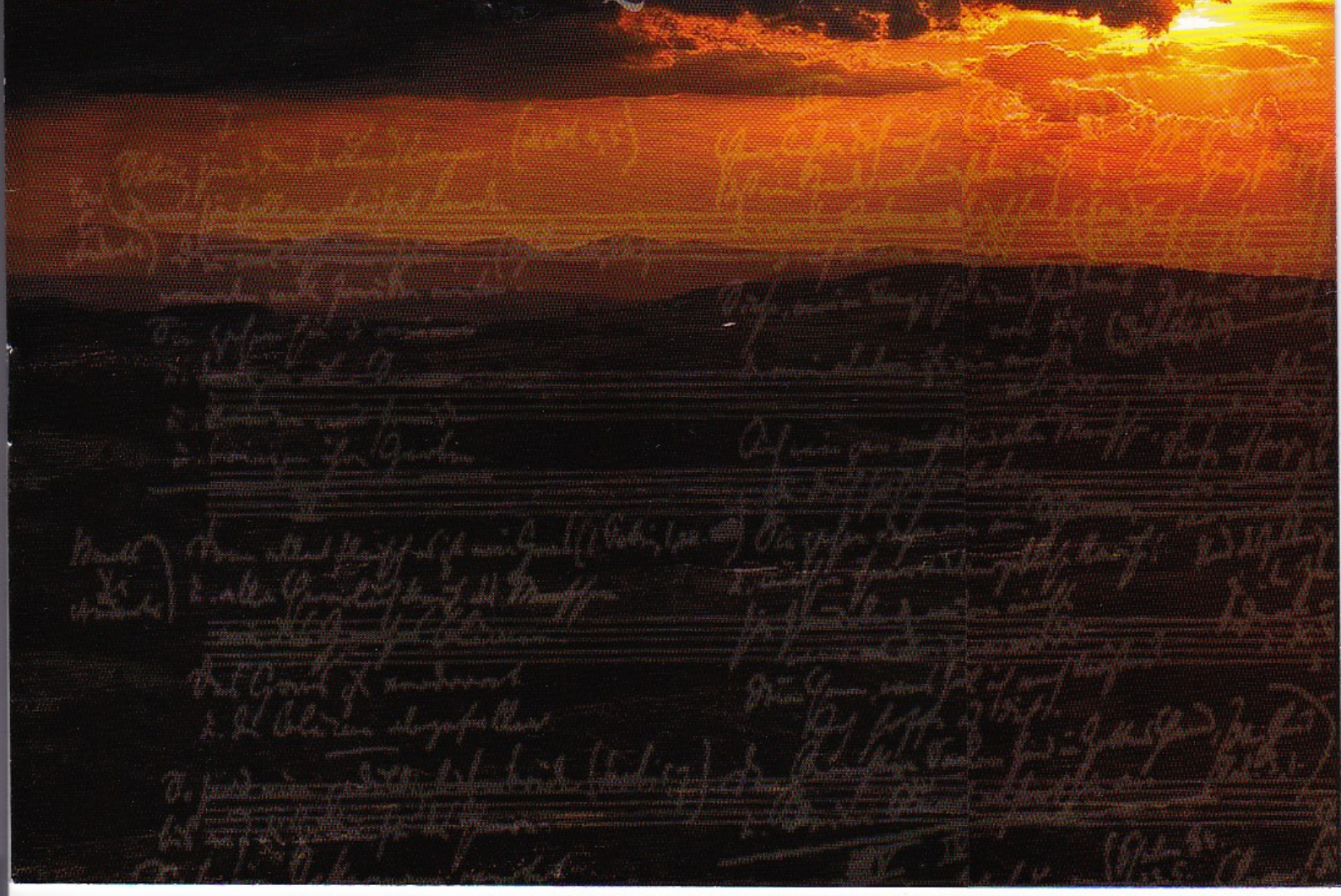
ヨハネス・ブラームス

ドイツ・レクイエム

EIN DEUTSCHES REQUIEM, OP.45



Johannes Brahms



'16 **3.4**(金) 19:00開演
岡山シンフォニーホール

主催：〈公財〉岡山シンフォニーホール
共催：岡山市、岡山県
助成：〈公財〉エネルギー文化・スポーツ財団、〈公財〉福武教育文化振興財団
：〈公財〉マルセンスポーツ・文化振興財団、  岡山県文化連盟

'16 **3.6**(日) 15:00開演
盛岡市民文化ホール 大ホール

主催：〈公財〉盛岡市文化振興事業団
共催：盛岡市、盛岡市教育委員会、盛岡パツハ・カンタータ・フェライン、岩手日報社
後援：岩手県合唱連盟、岩手日独協会、NHK 盛岡放送局、IBC 岩手放送、テレビ岩手
めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、ラヂオもりおか

'16 **3.8**(火) 19:00開演
イズミティ21 大ホール

主催：仙台宗教音楽合唱団、〈公財〉仙台市市民文化事業団
後援：〈公財〉宮城県文化振興財団、朝日新聞仙台総局、河北新報社、NHK仙台放送局

'16 **3.9**(水) 19:00開演
山形テルサホール

主催：山形テルサ指定管理者〈一財〉山形市都市振興公社
後援：山形県合唱連盟

企画制作/〈公財〉岡山シンフォニーホール

*名画「第三の男」のラストシーンで有名な菩提樹の並木道。この100m先に楽聖たちの眠るウィーン中央墓地があり、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、その2つ隣にブラームスの墓が置かれている。

Message



岡山市長
大森 雅夫

本日は、岡山フィルハーモニック管弦楽団「東日本大震災心の復興祈念コンサート」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

本団は、平成4年の創設以来、岡山の音楽芸術・文化振興の一翼を担うべく、精力的な演奏活動を展開してまいりました。平成25年には、世界的な音楽家であるハンスイェルク・シェレンベルガー氏を本団初の首席指揮者にお迎えするなど、今もなお、さらなる高みに向けて着実に歩みを進めており、各方面からも高い評価をいただいているところです。

こうした中、本日、本団と岡山・盛岡・仙台・山形の各合唱団様、そして各開催館の財団様が一つになって、東日本大震災から5年となる被災地の復興への祈りを捧げる演奏会ができますことは、この上ない喜びであり、開催に当たってご尽力賜りました全ての皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、本日の演奏が、お一人でも多くの方々の心に灯を点すものとなりますことをお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



岡山フィルハーモニック管弦楽団 首席指揮者
ハンスイェルク・シェレンベルガー

今回のブラームス作曲「ドイツ・レクイエム」において、岡山フィルハーモニック管弦楽団と共に、すでに信頼関係を築いている合唱指揮者・佐々木正利氏率いる、岡山・盛岡・仙台・山形の合唱団と東日本大震災心の復興祈念に向かう公演は、自分にとって重要であり、非常に強い想いを持って臨んでいます。

この「レクイエム」はカトリックの典礼音楽とは違い、ブラームス自身がマルチン・ルターのドイツ語訳聖書から歌詞を自由に選んで作曲。この地上で生きる人間に向けて生きる苦悩や孤独に寄り添い、より近くに死を見つめながら、それでも尚たくさんの希望や慰めが歌われていて美しい。曲は転調につぐ転調で情熱がうねりとなって展開します。

音楽はこの世のことを忘れさせ、悲しみが慰められるだけでなく、天国に導いてくれます。

そこへ皆さんも一緒に来てほしい。

自分の父を亡くした直後に、この「レクイエム」を演奏したことがあり、音楽を通じて天国の父と話しを交わしているような感覚でした。時間と空間を超えるのが音楽。震災後の5年間で多くを失った人全てを慰められると信じます。

2015年10月16日 取材による

この地上に残されて生きる慰め

Program

ヨハネス・ブラームス

「ドイツ・レクイエム」作品45〈字幕付〉

Ein Deutsches Requiem, op.45

指揮：ハンスイェルク・シェレンベルガー

ソプラノ：秦 茂子 バス：ドミニク・ヴェルナー

監修・合唱指揮：佐々木 正利

合唱：岡山バッハカンタータ協会〈3.4〉

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン〈3.6〉

仙台宗教音楽合唱団〈3.8〉

山響アマデウスコア〈3.9〉

管弦楽：岡山フィルハーモニック管弦楽団

Hansjörg
Schellenberger

指揮：ハンスイェルク・シェレンベルガー

1948年生まれ。13歳(1961年)からオーボエのレッスンを受ける。1965年17歳のときにドイツの音楽コンクールで1位になり、奨学生としてアメリカのインターローケン国際ミュージックキャンプに参加。1967年に学校卒業後、ミュンヘンとデトモルトにおいてオーボエ、指揮法、そして数学を勉強する。ミュンヘンのARDコンクール(1972年)を含む主要な音楽コンクールで入賞後、1975年から1980年までケルン放送交響楽団のソロ・オーボエ奏者となる。1980年1月から2001年夏までカラヤン指揮ベルリン・フィルのソロ・オーボエ奏者を務める。

その後30年間のオーケストラ活動に終止符を打ち、指揮者、ソリストの仕事に焦点を当てるようになった。

彼は長年に渡って世界的に有名なオーボエ奏者であり、1991年にはハイドン・アンサンブル・ベルリンを設立、芸術監督を務めている。また、ベルリン・フィルの団員として、彼はベルリンでコンサートをする全ての偉大な指揮者たちから音楽解釈や指揮法自体を学んでいた。1994年からは指揮者としての活動を開始、世界の著名なオーケストラから招かれており、日本でも多くのオーケストラに指揮者として出演。



ソプラノ：
秦 茂子
Shigeko Hata



バス：
ドミニク・ヴェルナー
Dominik Wörner



監修・合唱指揮：
佐々木 正利
Masatoshi Sasaki

国立音大、昭和音大大学院を経て2001年渡仏。フランス国立高等音楽院を満場一致の首席で卒業。

2005年エクサンプロヴァンス音楽祭アカデミーに参加。2008年にエコール・ノルマル音楽院高等演奏家ディプロム取得。これまでに、横山由美子、吉沢祐江、秋山理恵、ベギー・ブヴレ、スーザン・マノフ、オリヴィエ・ブル、サビーヌ・ヴァタンの各氏に師事。2003年ブローニュ・ビランクール・ロータリーコンクールにて2位入賞。2007年リリ・ナディア・ブーランジェコンクールにて1位入賞。パリ国立高等音楽院在学中に、オペラ・デビュー。以来フランス各地で演奏活動を展開。2010年日本デビューを果たす。

教会音楽・音楽学・チェンバロを学び声楽とオルガンのディプロマを取得、J.シュテンブリに師事。2002年ライブツィヒ・バッハ・コンクール優勝。C.コワン、ヘンゲルブロック、ヘレヴェッヘ、ホーネック、S.タイケン等の指揮のもと世界各地のホール、国際音楽祭に出演している。バッハ歌唱で「深遠なバス」と評価されるほか、リートにおいてはフォルテピアノや映像との共演など多彩な表現を提唱。ルソーの幕間劇《村の占い師》ではタイトルロールを歌いオペラ・デビューも飾った。BCJでは2012年《パウルス》、2013年《ヨハネ受難曲》の独唱等で喝采を博している。

日独リートフォーラム主宰。キルヒハイム音楽祭芸術監督。

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士及び博士後期課程修了。1979年にシュトゥットガルトに渡り、L.フィッシャー教授に師事。1980年第6回ライブツィヒ国際バッハコンクール声楽部門第5位入賞。同年より82年までデトモルト北西ドイツ音楽大学に学び、H.クレッチマール教授に師事。オラトリオ、カンタータなどの宗教音楽を専門とし、特に日本を代表とする「バッハ演奏家」として、85年のザルツブルク音楽祭をはじめ、内外で福音史家、テノール・ソロを務め絶賛され、合唱指揮者としても、高く評価されている。現在、岩手大学教育学部音楽科教授、二期会会員、日本声楽発声学会理事、日本音楽表現学会会長諮問委員、仙台バッハ・アカデミー理事。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハカンタータ協会、東京21合唱団、東北大学混声合唱団、岩手大学合唱団、各指揮者。山響アマデウスコア音楽監督。

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

Morioka Bach Kantaten Verein



1977年「カンタータを歌う会」として発足。以来、一貫してJ.S.バッハの作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究、演奏を行っている。1991年ドイツにおいて「作品の語感、音、そして精神の完熟」という現地新聞の批評を受ける。合唱指揮者佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導の積み重ねがあり、H.リリング、H.ヴィンシャーマン、H.J.ロッチュ、J.ツィルヒ、岩城宏之等、世界的指揮者との共演を重ね、各指揮者より、ドイツ・バロック音楽を音楽的かつ人間的に表現できる合唱団として、熱い評価を得るようになった。

1998年から2007年にかけてH.ヴィンシャーマン指揮の下、

バッハの四大大宗教曲全てを演奏した。今世紀に入ってからにはベートーヴェン「第九」、マーラー「復活」、モーツァルト「レクイエム」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」、メンデルスゾーン「聖パウロ」等、バッハより後の時代の大曲にも取り組んでいる。

1986年を皮切りに海外での公演も数回に及び、ドイツを中心にライプツィヒ、ミュンヘン、ボンをはじめとした諸都市で、バッハのカンタータを主に、「ロ短調ミサ」、「クリスマス・オラトリオ」、ハイドン「天地創造」、ヘンデル「メサイア」等を演奏し絶賛を博した。

「ドイツ・レクイエム」は、2年前に行った2台のピアノとの共演による盛岡、仙台での演奏会以来。

ソプラノ

赤朝板太 大岡岡小 小加熊 熊昆 斎坂
塚倉宮田 矢野山川 原藤谷 澤藤下
温美 彩克 美映 子世香 代理 晶子 澄
子優渚 里子 映子 子世香 代理 晶子 澄

佐々木 藤 中橋 橋田 中村 葉崎 賀原 良木
佐佐柴 対高 高多 田田 千外 芳三 本八
沙澄 千絵 梨奈 子絵 枝子 香子 紗子 歩織 子未
綾江 明奈 子絵 枝子 香子 紗子 歩織 子未

アルト

一井 彩 来 澄 美 子 鶴 子 子代 公 美 子 都 奈 美 冴 子
小笠 小 小 金 桐 慶 小 佐 鈴 高 田 千 統 徳 中
井原 川 子 原 院 坂 藤 木 橋 口 葉 石 田 野
彩香 眺 院 千 絹 尚 文 英 知 千 紗 春 真 奈 晶

野澤 安里 彩 波 子 子子 子子 子子 子子 子子 子子
澤井 穂 良 真 紀 子 子子 子子 子子 子子 子子
原平 廣 藤 藤 本 三 茂 遊 渡
伊小 加 佐 々 木

テノール

伊小 加 佐 々 木
藤川 藤 大
陽隆 進
平弘 也 駿

バス

雄史 人 保 司 史 健 貴 也 敏 哲
幹雅 尚 奏 寛 真 佑 佑 正
木中 邊 野 野 澤 沼 川 原 村
佐々 田 中 中 西 藤 細 堀 三 吉
赤荒 宇 津 野 室 大

穂樹 久 央 聡 彦 幸 之 喜 夫 典 毅 清 之
一悠 和 玲 彰 高 敬 裕 郁 昭 誠 信
原菅 藤 藤 橋 山 村 田 掛 賀 澤 村 橋 辺
小小 佐 佐 高 玉 田 千 角 芳 廣 藤 松 渡

この地上に残されて生きる慰め

仙台宗教音楽合唱団
Chor Geistlicher Musik Sendai



1967年の発足以来、ドイツ・バロック期 バッハ、シュッツなどの宗教合唱曲を中心にすえて活動。1982年以降は佐々木正利を指揮者に迎え、上記に加えて、モーツァルト、メンデルスゾーン、ブラームスなどの古典・ロマン派から、フォーレ、デュルフレ、オネゲル、ローリゼンなどの近現代の宗教作品まで演奏している。

作品の本質に迫るためには、「歌詞の深い理解とそこに込められたメッセージへの共感」を十全に表現することが大切であり、そのためにはまず「正確な発音、訓練された発声」と「正しい様式感」が不可欠であるという佐々木正利の指導のもと、様々なバックグラウンドを持つ団員が集まり、演奏会を目指し練習を重ねている。

山響アマデウスコア
Yamakyo Amadeus Chor



2008年、合唱音楽監督に佐々木正利・岩手大学教授、合唱指揮に渡辺修身・山形大学准教授を迎え、山形交響楽団のモーツァルト交響曲全曲演奏定期演奏会「アマデウスへの旅」シリーズに出演することを目的に結成し、同交響楽団の付属合唱団として活動している。

2015年2月の「レクイエム」の演奏をもってシリーズが完結したが、その間、「戴冠式ミサ」や「孤児院ミサ」、「ハ短調大ミサ」などのミサ曲、「魔笛」や「フィガロの結婚」などオペラのハイライトを演奏した。このほか、山形交響楽団定期演奏会において、マーラー「復活」、ワーグナー歌劇「さまよえるオランダ人」全曲、メンデルスゾーン交響曲第2番「讃歌」、山形テルサ主催のオルフ「カルミナ・

岡山バッハカンタータ協会
Okayama Bach Kantaten Verein



1985年、小澤征爾の指揮によるバッハ「ロ短調ミサ曲」（主催：くらしきコンサート）の演奏会をきっかけに、1987年バッハカンタータ演奏を目的に結成。指揮に日本を代表するバッハのスペシャリストである佐々木正利氏を迎えて現在に至る。

1993年ヘルムート・ヴィンシャーマン指揮 バッハゾリステンと「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ロ短調ミサ曲」「クリスマスオラトリオ」、2007年ベーター・シュライヤー指揮 アンサンブル金沢と「ヨハネ受難曲」、2010年ヘルムート・リリング指揮「ロ短調ミサ曲」をいずれも岡山、東京で共演し、ライブCDを発売。世界の冠たるバッハ指揮者より信頼を得て高い評価を獲得。また、度々渡欧して演奏活動を行う中、2011年5月、東日本大震災復興支援のためのチャリティーサート

2004年の「ドイツ演奏帰国記念 第28回演奏会」は、第13回仙台市芸術祭において最も優れた事業と認められ、創造性と功績により「2004年度せんだい芸術祭賞大賞」を受賞し、2010年にはH.リリング指揮のバッハのミサ曲短調演奏会に出演した。

2011年東日本大震災により活動を一時休止したが、2012年には台湾台北市での日本311週年追思音楽会および山響・仙台フィル合同演奏会にて「マーラーの復活」に出演、いずれも好評を博した。また、震災直前の第33回演奏会において、モーツァルトのレクイエムを演奏したことが契機となり、2013年から毎年、3月11日に同曲による「3.11祈りのコンサート」等の追悼演奏会に出演している。

「ブルーナ」全曲など、数々の合唱付きの大作を演奏し、合唱団の確かな存在感を示して県内外から高い評価を得ている。

このうち、マーラー「復活」については、2012年7月に、仙台フィルハーモニーとの共演により山形市と仙台市において、また、日本センチュリー交響楽団との共演により2014年10月に大阪市ザ・シンフォニーホールおよび東京サントリーホールにおいて演奏するなど、活動の幅を広げている。

さらには、毎年暮れの恒例となった山形テルサ主催のベートーベン「第九」に連続して出演しているほか、山響スペシャルコンサートにおいて映画音楽などにも取り組み好評を博している。

をライブツィヒ「聖トーマス教会」が主催。当協会は日本を代表して復活の祈りを込めてバッハの幕前で献奏が許された。2012年新イタリア合奏団とヴィヴァルディの作品で共演。2014年2月に岡山・東京で開催した岡山フィルハーモニック管弦楽団特別演奏会「ヨハネ受難曲」(指揮ハンス・エルク・シェレンベルガー)に於いて合唱を担当し、絶賛された。同年5月には新イタリア合奏団と共に、イタリア・ヴェネツィア近郊3都市の音楽フェスティバルに出演、好評を博し、11月には大阪フェスティバルホールでも共演。

2000年岡山芸術文化賞、2007年福武伝統文化奨励賞、2013年マルセン文化奨励賞、日教弘奨励賞、周年岡山芸術文化賞グランプリ受賞。

地方都市岡山を本拠地とする芸術性の高い合唱団として活躍。

ソプラノ

飯石 淵 正 子
石 川 郁 子
石 澤 悦 子
猪 野 信 子
小 高 幸 江
小 坂 わか 奈
後 藤 洋 子
小 林 澄 子
近 藤 順 子
佐々木 沙 綾
佐々木 玲 子
圓 谷 子
西 島 子

福 田 良 子
増 田 明 子
持 田 良 子
本 山 室 子

アルト

大 友 利 恵
大 場 啓 子
菊 池 春 子
佐々木 加代子
柴 田 潔 子
白 石 映 子
鈴 鴨 洋 子

鈴 木 英 美
竹 内 淑 子
田 村 佳 子
永 沼 陽 子
早 坂 香 子
三 浦 由 貴
水 戸 子
柳 父 子
矢 野 子
山 岸 子
吉 岡 子

テノール

石 井 進 一
太 井 翔 平
岩 井 平

加 藤 太 郎
河 原 倫 典
北 岡 真 吾
安 田 良 勝
吉 谷 地 久

バス

菊 地 安 雄
佐々木 健 一
々 倉 史
島 倉 裕
鈴 木 孝 己
高 木 正 一
山 岸 健 信
渡 辺 信

ソプラノ

相 澤 久 仁
足 達 真 由
阿 部 千 穂
石 川 啓 子
和 泉 はるみ
太 田 淳 子
小 野 寺 美 和
木 村 し の
日 塔 こ と
深 瀬 浩 子
藤 澤 慈 美
逸 見 洋 子
真 祐 子

アルト

阿 部 静 子
大 内 多 恵
小 澤 由 紀
押 原 香 澄
佐 野 明 子
佐 竹 圭 子
田 藤 由 枝
東 中 子
福 岡 玲 子
渡 辺 牧 子

テノール

大 内 勝 利
太 田 純 功
東 海 宏 幸
塚 崎 敏
日 塔 常 喜
結 城 生

バス

遠 藤 剛
大 沼 己
加 沼 朗
鈴 木 集

ソプラノ

板 野 陽 子
岡 崎 順 子
片 山 正 子
新 谷 子
武 田 子
中 島 樹 子
永 井 裕 子
浜 脇 志 保
広 田 美 子
藤 田 祥 子
古 川 和 子
星 島 陽 子
八 川 明 子
山 木 好 恵
下 愛 由 子

アルト

安 部 涼 子
犬 飼 彩 子
小 西 和 美
松 原 知 子
十 川 知 子
丹 原 節 子
原 田 眞 子
藤 貫 亜 子
脇 本 恵 子
上 森 佳 枝

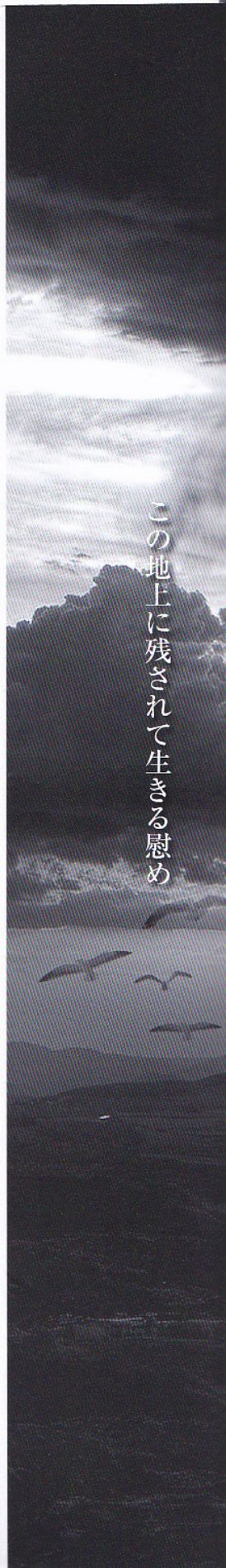
テノール

内 田 毅
大 熊 政 次
奥 井 伸 二
加 藤 充 朗
谷 村 郁 美
夏 崇 之
林 真 彰
山 崎 一
横 地 弘 夫

バス

伊 藤 紀
岩 彦
沖 夫
川 文
德 一
西 浩
古 方
前 峻
前 浩
原 浩
島 仁
原 人

この地上に残されて生きる慰め



Okayama Philharmonic Orchestra

岡山フィルハーモニック管弦楽団

1991年岡山シンフォニーホールの開館により、国内外のアーティストより音響の素晴らしいホールとして高い評価を獲得。これを機に文化庁の指定を受けて、岡山にゆかりのあるメンバーを中心に優れた演奏者で構成された岡山初のプロオーケストラ、岡山フィルハーモニック管弦楽団を1992年に創設。

以来、世界の著名な指揮者・ソリストを迎えて開催する定期演奏会をはじめ、若い演奏家の育成事業、青少年の情操教育に資する事業、子育て支援や地元演奏団体との共演等、地域における音楽芸術振興の中心的役割を担い公演回数は年間100回を超えている。

また、カラヤン率いるベルリンフィル黄金期に首席オーボエ奏者としてその名を世界に刻んだシェレンベルガーが2013年より岡フィル初の首席指揮者に就任。近年着実に進化を遂げている岡フィルは、東京公演、東北公演、四国公演と次々に活動を拡げ好評を博している。



ゲストコンサートマスター
長原 幸太

1981年、広島県呉市生まれ。東京芸術大学を卒業後、ジュリアード音楽院に留学。1992年、93年、全日本学生音楽コンクール全国第1位。1994年、第6回ヴィニエアフスキー国際コンクール17歳以下の部第3位。1998年、第67回日本音楽コンクール最年少優勝。レウカディア賞、鷺見賞、黒柳賞を受賞。これまでに村上直子、小栗まち絵、故・工藤千博、澤和樹、ロバート・マンの各氏に師事。

12歳で東京交響楽団と共演したのを皮切りに、日本各地の主要オーケストラ、小澤征爾、ゲルハルト・ボッセ等の名指揮者と共演。アルゲリッチ国際音楽祭、宮崎国際音楽祭等、各地の音楽祭にも積極的に出演。演奏を通じてのボランティア活動にも力を入れている。

2003年と2005年に、英国の湖水地方「夏の音楽祭」に、2005年には英国の「ライディール音楽祭」に招かれ、いずれも高い評価を得て、海外でも活躍。

2004年より、大阪フィルハーモニー交響楽団首席コンサートマスターを務め、2014年、読売日本交響楽団のコンサートマスターに就任。

第1ヴァイオリン

長原 幸太
近藤 浩子
上井 友美
荒井 健次
高旗 洋文
入江 幸也
平井 中郁
田中 野悠
今小 杉祐
西村 祐可
芹原 充

第2ヴァイオリン

川口 静華
住吉 のりこ
河野 園子

石南 崇子
南条 聖歌
納富 彩由
野村 美子
濱田 南子
矢田 充子
木紀子

ヴィオラ

沖田 孝司
杉山 みゆき
佐份 祐子
利道 弓美
大野 真史
中村 敏音
川崎 敦育
岩崎 美育

チェロ

奥泉 圭子
後藤 敏子
山本 玲子
成川 昭代
佐藤 陽一
米田 依未

コントラバス

南出 信一
石川 徹志
嶋田 真泉

フルート

三瀬 直子
若林 かをり
宮崎 英美

オーボエ

工藤 亜紀子
沼田 佳名子
★福田 由美

クラリネット

磯部 周平
芦田 修次
★松本 典子

ファゴット

柄澤 美由子
西牧 岳
小野 エリコ

ホルン

阿部 磨
飯島 さゆり

吉野 元章
奥村 邦子

トランペット

横田 健徳
★中尾 友紀
高見 信行

トロンボーン

奥村 尚美
梅澤 駿佑
古荘 恭英

チューバ

岩井 英二

ティンパニ

深町 浩司

パーカッション

★荻原 里香
★小川 裕雅
★永田 大將
★日下 明子

ピアノ・オルガン

中島 尚子

ハープ

Margit=Anna・Süss
Johanna・Schellenberger

★第49回定期演奏会
のみ出演



Johannes Brahms
ヨハネス・ブラームス



Ein Deutsches Requiem, op.45
ドイツ・レクイエム op.45 (字幕付)

1833.5.7/ハンブルグ生—1897.4.3ウィーン没

ドイツ最北の港町ハンブルグ。船員相手の売春婦がたむろする粗末な木造アパートが並ぶ貧民街に誕生。生活も困窮を極めていたが、幸い父親の思惑から音楽教育を受けることが許され、作曲にピアノにと早くから才能を発揮していった。そして、13歳から毎夜、場末のダンスホールで1晩2マルクのピアノ弾きとして切迫した家計を支えていた。

しかし、ハンブルグでは下層階級の出身であることから彼の望む定職は得られず、生涯に渡って拭えぬ劣等感となった。

転機は1853年、20歳の時、シューマン家をノックした事で訪れ、シューマンは彼を“神から遣わされた天才”“ベートヴェンの再来”と激賞し、シューマン夫人にして天才ピアニスト・クララとの生涯

の出会いでもあった。その後1862年ウィーンに進出、たちまち音楽の都に溶け込んだ。気ままに、孤独に…しかし、いまだ故郷ハンブルグへの執着も捨てきれず…。

1869年、35歳にしてようやく10年の歳月を経て「ドイツ・レクイエム」を発表。彼の代表作として世に出たのである。貧乏からもやっと解放され、特に1871年ウィーン楽友協会の音楽監督に推薦され、就任するとウィーンでの地位を確固たるものとした。その後も数々の栄誉を得たが、深く丹念に考え悩み続ける静かな人柄で、厳しい自己批判を自らに課して音楽の中の真実、人生の真実を求めた。

「音の中で私は語っている」—ブラームス



ブラームスの生まれた街 ハンブルグ

「レクイエム」は通常カトリック典礼でラテン語による“死者のためのミサ”用の音楽であるが、ブラームスはマルチン・ルターのドイツ語訳「聖書」から自由に選択、構成し自身の宗教観、死生観を確信を持って表現している。

キリスト教の教義である、アダムとイブに由来する「原罪論」、イエス・キリストが人間の全ての罪を贖った「贖罪論」、そして「復活論」は全く表現していない。曲中「Herr—神」は語られるが「Christe—キリスト」は言葉すら出てこない。

ブラームスの生きた19世紀半ばは、貴族社会

の崩壊後、混沌とした政治情勢が続く中、ヨーロッパのみならず、世界中が大きな変換期にあり（日本においても明治維新のただ中である）こうした時代背景がブラームスに影響を及ぼしたことは間違いないであろう。

作曲は、恩人ロベルト・シューマンの衝撃的な死と愛する母親の死をきっかけとし完成までには24歳から35歳の10年間に要した。

テーマは死者のためではなく「地上で苦しみながら生きる人々への魂の慰め」である。

全曲初演：1869年ライブツィヒ

この地上に残されて生きる慰め

朝靄かすむ静寂の大地に一条のやわらかな光が差し込むと導かれるように低音楽器が響き始める。
すると解け合うように合唱が重なり、“この地上で悩み苦しみながら生きる人々へのSelig〈慰め〉に始まり
神のもとでSelig〈幸い〉”で終わる壮大な“人間レクイエム”を語り始める……

全曲のテーマ

1.

Seilig sind, die da Leid tragen,
denn sie sollen getröstet werden.

Die mit Tränen säen.

werden mit Freuden ernten.

Sie gehen hin und weinen und tragen edlen Samen
und kommen mit Freuden und bringen ihre Garben.

人の世の儚さ

2.

Denn alles Fleisch es ist wie Gras
und alle Herrlichkeit des Menschen wie des Grases Blumen.
Das Gras ist verdorret und die Blume abgefallen.

So seid nun geduldig, lieben Brüder.

bis auf die Zukunft des Herrn.

Siehe, ein Ackermann wartet

auf die köstliche Frucht der Erde und ist geduldig darüber,
bis er empfahe den Morgenregen und Abendregen.

バリトン・ソロ 限りある命

3.

Herr, lehre doch mich,

daß ein Ende mit mir haben muß,

und mein Leben ein Ziel hat,

und ich davon muß.

Siehe, meine Tage sind einer Hand breit vor dir,
und mein Leben ist wie nichts vor dir.

Ach, wie gar nichts sind alle Menschen,

die doch so sicher leben.

Sie gehe daher wie ein Schemen,

und machen ihnen viel vergebliche Unruhe.

sie sammeln und wissen nicht, wer es kriegen wird.

Nun Herr, wes soll ich mich trösten?

Ich hoffe auf dich.

主の御前に

4.

Wie lieblich sind deine Wohnungen, Herr Zebaoth!

Meine Seele verlangt und sehnet sich

nach den Vorhöfen des Herrn;

mein Leib und Seele freuen sich in dem lebendigen Gott.

1.

苦悩を背負う人々は幸せである。

彼らは慰められるのだから。

(『マタイによる福音書』5:4)

涙と共に種を撒く人は、

喜びと共に収穫するだろう。

出て行き、涙を流し、貴重な種を持って行く人々は

喜びと共に束を抱えて戻って来る。

(『詩篇』126:5,6)

2.

肉ある者は皆 草のようで、

人間のあらゆる栄華は草の花のようだ。

草は枯れ、花は散ってしまう。

(『ペテロの手紙』1:24)

今は耐え忍びなさい、親愛なる兄弟たちよ、

主の到来の時まで。

見よ、農夫は待っている。

大地の貴い実りを、耐え忍びながら

朝の雨と夕べの雨を迎えるまで。

(『ヤコブの手紙』5:7)

3.

主よ、私に教えてください、

私に必ず終わりがあるという事を、

私の命に限りがあり、

それが避けられないという事を。

見てください、私の日々はあなたには一握りの長さ、

私の人生はあなたには無に等しいものです。

ああ、すべての人間は無に等しいもの、

たとえ安らかな人生を送っていても。

人は影のように消え去るもの、

無駄に慌ただしく生き、

集め蓄えても誰がそれを受け取るのか知りません。

では主よ、何を私は慰めにすれば良いのでしょうか？

私はあなたに望みをかけます。

(『詩篇』39:4-7)

4.

あなたの住まいは何と素敵なのでしょう、万軍の主よ！

私の魂は望み憧れています

主の前庭に。

私の体も魂も生ける神に喜んでいます。

(『詩篇』84:1-2)

5.

Ihr habt nun Traurigkeit,
aber ich will euch widersehen
und euer Herz soll sich freuen
und euer Freude soll niemand von euch nehmen.

Sehet mich an:
Ich habe eine kleine Zeit
Mühe und Arbeit Gehabt
und habe großen Trost funfen.

Ich will euch trösten,
wie einen seine Mutter tröstet.

最後の審判

6.

Denn wir haben hic keine bleibende Statt,
sondern die zukünftige suchen wir.

Wir werden nicht alle entschlafen,
wir werden aber alle verwandelt werden;
und dasselbige plötzlich in einem Augenblick
zu der Zeit der letzten Posaune.
Denn es wird die Posaune schallen
und die Toten werden auferstehen unverweslich,
und wir werden verwandelt werden.

Dann wird ergüllet werden das Wort, das geschrieben steht:
Der Tod ist verschlungen in den Sieg.
Tod, wo ist dein Stachel?
Hölle, wo ist dein Sieg?

最後に第1楽章のテーマが表れて曲を閉じる

7.

Selig sind die Toten,
die in dem Herrn sterben, von nun an.
Ja, der Geist spricht,
daß sie ruhen von ihrer Arbeit;
denn ihre Werke folgen ihnen nach.

5.

あなたたちには今、悲しみがある、
しかし私はあなたたちに再会し
あなたたちの心は喜ぶだろう、
そしてあなたたちの喜びを取り上げる事は誰にもできない。
(『ヨハネによる福音書』16:22)

私を見てください、
私はほんの少しの間
労苦と労働をしただけで
大きな慰めを見出しました。
(『ベン・シラの知恵』51:27)

私はあなたたちを慰める、
独り子を母が慰めるように。
(『イザヤ書』66:13)

6.

私たちはここでは永遠の居場所を持たないのでから、
それを未来に探し求めるのです。
(『ヘブライ人への手紙』13:14)

見よ、私はあなたたちに神秘を語ろう。
私たちは皆 眠り続けることは無く、
皆 変えられる。
それは突然、一瞬にして、最後のラッパと共に起こる。
そのラッパが響く時
死者たちは朽ちることの無い者として甦り、
私たちは変えられる。

そして聖書に書かれた言葉が成就する-
「死は勝利に飲み込まれた。
死よ、お前の棘はどこに?
地獄よ、おまえの勝利はどこに?」
(『コリント人への手紙』15:51-55)

7.

今から後、
主のもとに死ぬ人々は幸せである。
「そうだ」と聖霊も語る、
「彼らは労苦を解かれて憩い、
彼らの成したことも報われるのだから」
(『ヨハネによる黙示録』14:13)



ブラームスの墓碑

晩年は、ハンブルグから名誉市民権、オーストリア皇帝からは勲章を授かるなど外面的には栄光に包まれたものであった。しかし、1896年最愛のクララが脳卒中で亡くなると、その衝撃は大きく、まるで後を追うように翌1897年4月3日肝臓癌で死亡、64歳であった。

葬列がウィーン楽友協会を巡るなどウィーンの多くの人々に見送られて葬式が執り行われ、親しい友人であったドヴォルジャークが棺側付添人となり楽聖たちの眠るウィーン中央墓地に埋葬された。

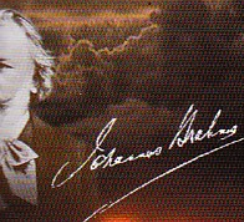
しかし、ブラームスのことである、心の奥底では母を慕う子供のように故郷・ハンブルグで眠りたいと願っていたのではないだろうか。
彼の信条は「生きるということは深く孤独である」。

(文責:玉垣 夫規子)

文化庁

助成：

回ウィーン・フィル &
ハリー音楽復興祈念賞



祈りを込めて

